

2024年7-9月期四半期別GDP速報（1次QE）公表に際しての
赤澤経済財政政策担当大臣談話

2024年11月15日（金）

1. 本日公表の2024年7-9月期GDP1次速報値では、名目成長率は、前期比プラス0.5%、実質成長率は、前期比プラス0.2%と、それぞれ2四半期連続のプラスとなった。

実質成長率の内訳を見ると、内需については、設備投資は、2四半期ぶりに前期比マイナスとなったものの、個人消費は、台風・地震の影響により宿泊サービスの減少と飲食料品の増加がみられたほか、自動車等が増加したことなどにより、前期比プラス0.9%と、2四半期連続のプラスとなった。

また、外需については、中国景気の足踏み状態を反映して、中国向けの財輸出が減少し、輸出の伸びは緩やかなものにとどまった。その結果、輸出の伸びが輸入の伸びを下回り、外需の寄与は、3四半期連続のマイナスとなった。

2. 雇用・所得環境を見ると、33年ぶりの高水準となった春季労使交渉における賃上げの効果や、堅調な夏のボーナスを受け、実質雇用者報酬が、前年同期比でプラス0.9%と、2四半期連続の増加となった。

先行きについては、10月以降、過去最大の引上げ幅となった最低賃金引上げが適用されるなど、引き続き、雇用・所得環境が改善する下で、景気の緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、海外経済の下振れリスクや金融資本市場の変動による影響等に十分注意する必要がある。

3. 我が国経済は、現在、長きにわたったコストカット型経済から脱却し、「賃上げと投資が牽引する成長型経済」に移行する重要な局面にある。その実現に向け、現在策定中の新たな総合経済対策を含め、経済財政運営に万全を期してまいりたい。

（以上）